

グループビジョン2030に向けて

Kawasakiが目指すDX (Kawasaki DX)

2021年12月

R1：2023年4月

R2：2026年1月

川崎重工業株式会社



Contents

1. Kawasaki DX
2. 具体的な取組み
3. DX推進人財の育成の取組み
4. DX推進体制



愉しむ @ カワサキ

すべての従業員が働き甲斐を感じ、
仕事を愉しめるKawasakiを実現する

会社に来るのが楽しいですか
仕事に集中できますか
仕事にやりがいを感じてますか
仕事を愉しんでいますか



すべてに“**Yes!**”と答える
Kawasakiへ

漢字の「愉」を使った「愉しむ」は「楽しむ」よりも「愉快な気持ちになる」というニュアンスが強く、
自分の意志でしたいと思う行動を選び、その結果におもしろさや充実感を得ている様子を表しています。

「愉しむ@カワサキ」に向けて何をなすべきか

従業員のみなさんはこんな不満を感じていませんか？

- 雑務に追われて本来の仕事に集中できない
- 自分のワークライフバランスに満足できていない
- 自らが成長している実感がなく、将来への不安がある
- 職場の仲間と共に感じ、協力できている実感がない

その問題を解決するためにDX戦略本部は新たな目標を設定しました

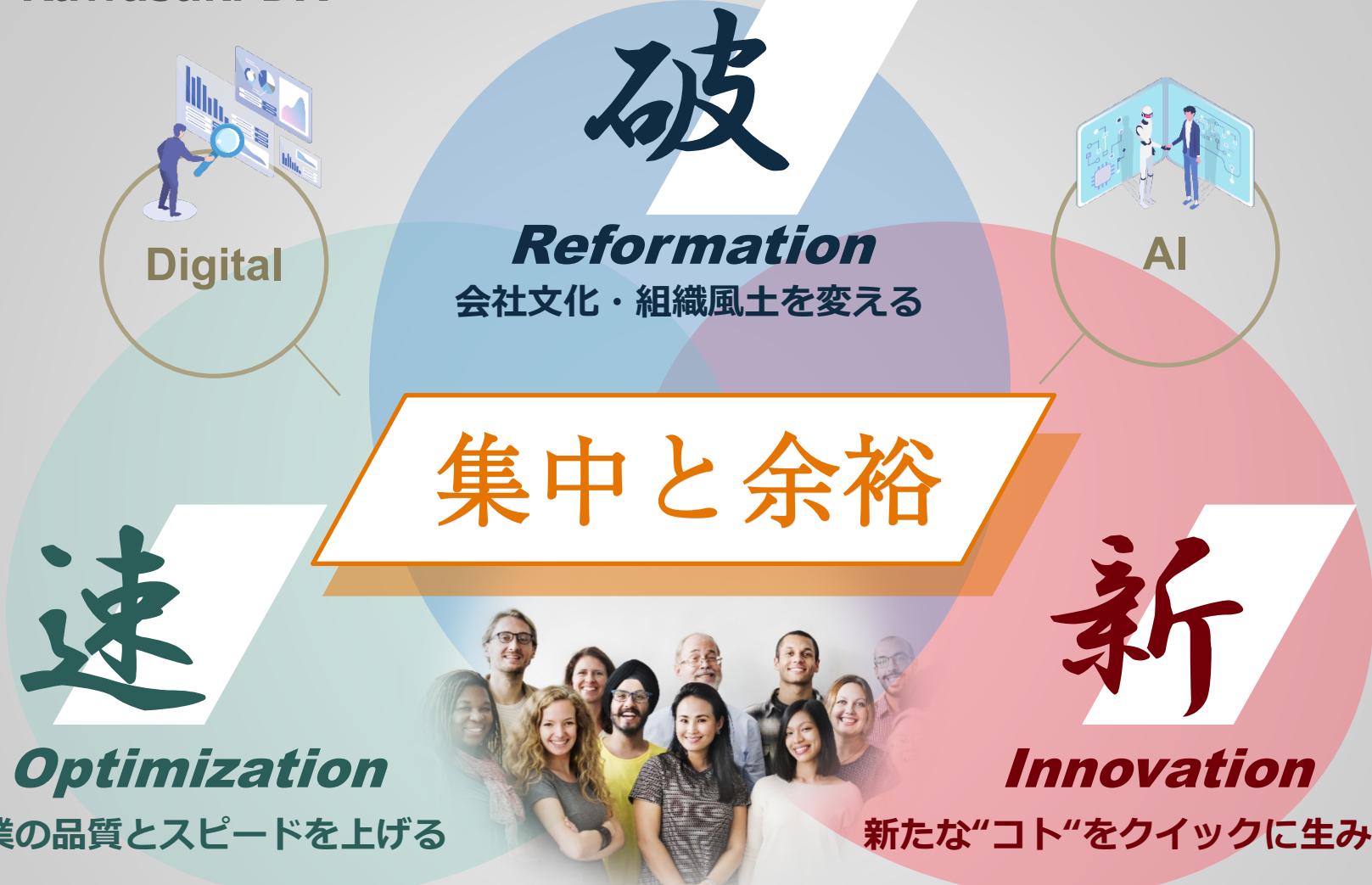
集中と余裕 の獲得

「集中」が生産性を上げ、事業成長に貢献し、
「余裕」がチャレンジを生み、変革を実現する

DX 戦略本部 Mission

デジタルの力で、すべての従業員に集中と余裕をもたらし、成長と変革を実現する

Kawasaki DX



DX 戰略本部 Mission

デジタルの力で、すべての従業員に集中と余裕をもたらし、成長と変革を実現する

グループビジョン2030におけるKawasaki DXの位置づけ

Kawasaki DX

デジタルによって、事業の成長やビジネスモデルの変革を起こすことで、グループビジョン2030実現をサポートする。

グループビジョン2030 注カフィールド

安全安心
リモート社会

近未来
モビリティ

エネルギー・環境
ソリューション

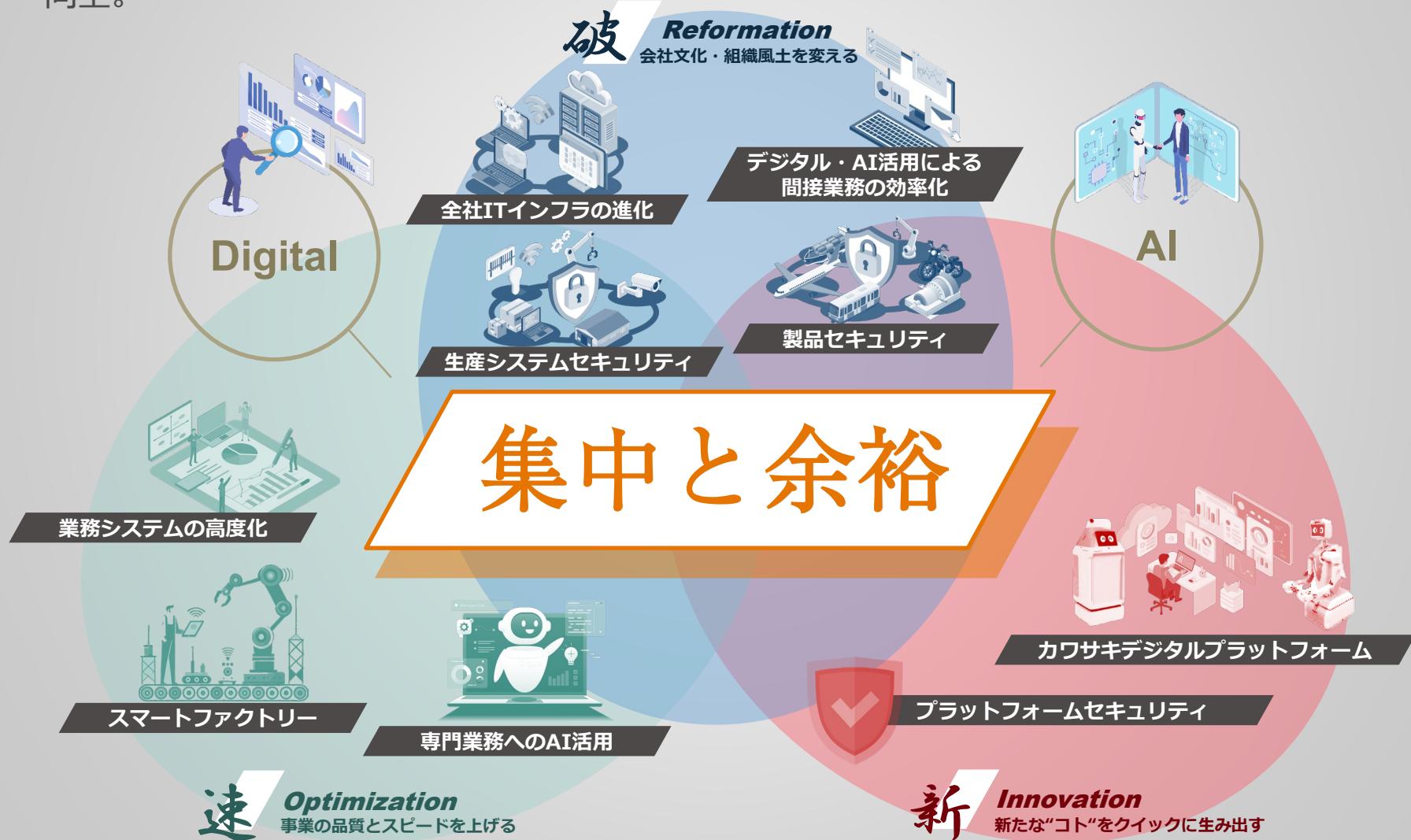


Kawasaki DX

デジタルによって、事業の成長やビジネスモデルの変革をサポート

Kawasaki DXにおけるデジタル技術

「破」「速」「新」の各領域にデジタルとAIを織り込みながら事業・業務を変革し、企業価値を向上。





Reformation

会社文化・組織風土を変える



■ 自らの成長とやりがいを感じるワークプレイスの実現

- 自分自身や家族との時間や体験を大切にできる、場所を選ばない働き方
- 仲間とのつながりや一体感を増幅し、連携や協調を実感する職場
- 最新のデジタルスキルを習得できる学習環境の提供

■ 最新技術を業務環境に提供し、生産性を飛躍的に向上

- AIという新たな助手を使いこなす新しい働き方を追求
- 煩わしい作業を徹底的に自動化し、生産性を飛躍的に向上
- 安全、安心、安定な情報インフラと従業員に寄り添った運用サービスの提供

破の取組み

①インフラ・セキュリティ整備

2020年以降、インフラ環境・セキュリティ態勢を順次整備し、リモートワーク環境の実現や、クラウドサービスの導入に取り組んできた。

今後はAI導入・活用を加速し、利便性、生産性、安全性のさらなる向上を目指す。

2020年～

インフラ環境
セキュリティ態勢整備

リモートワーク
環境実現

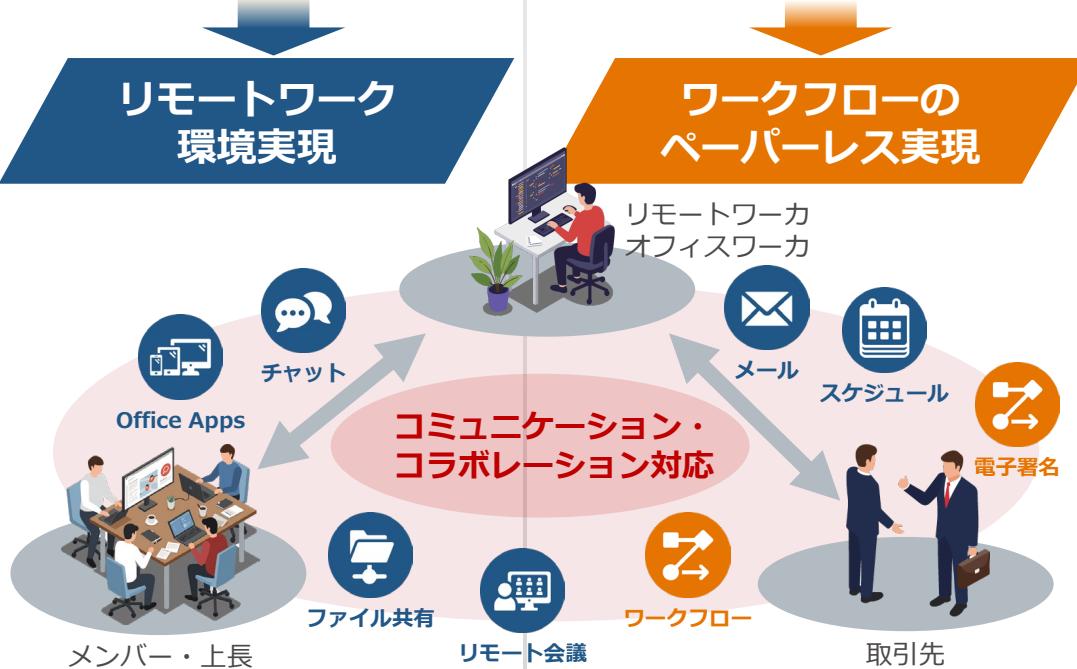
2022年～

クラウドサービス(MS365など)
クラウド認証基盤整備

ワークフローの
ペーパーレス実現

2025年～

- AI・データ管理運用拡大
- グローバル情報セキュリティ
態勢整備
- 製品セキュリティ態勢構築



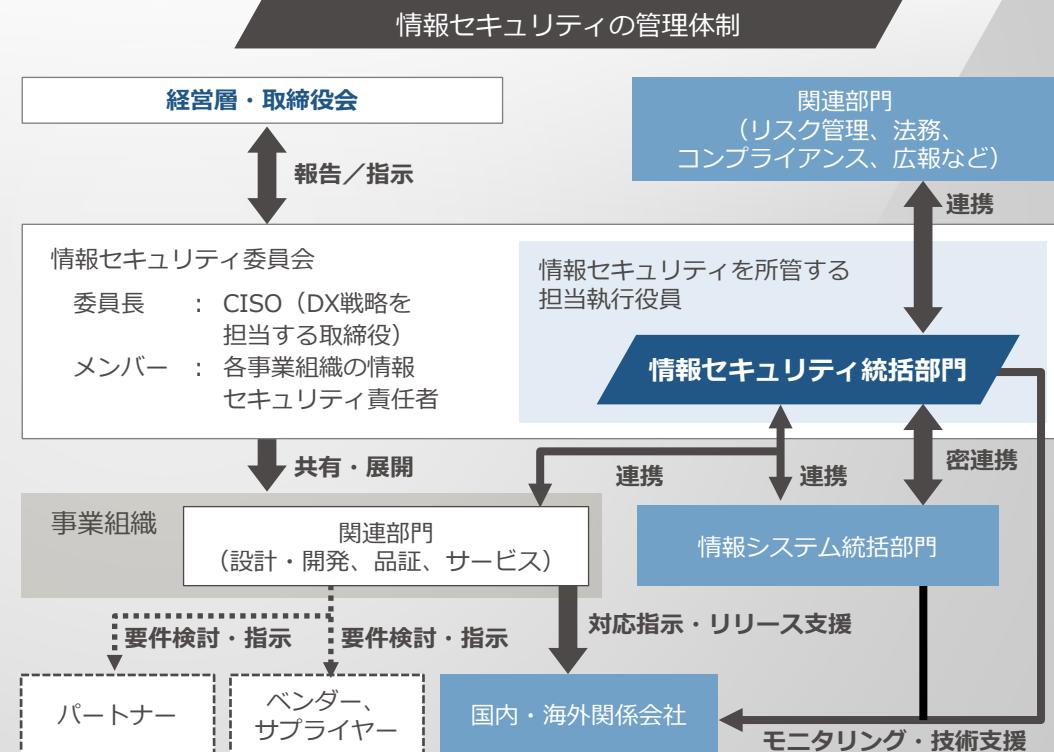
利便性、生産性、安全性の向上

破の取組み

②情報セキュリティ体制構築と情報発信

2023年度より当社の情報セキュリティの方針、管理体制、各種セキュリティの取組内容をまとめた「情報セキュリティ報告書」を発行し、ウェブサイトに掲載している。

情報セキュリティ報告書



情報セキュリティ報告書 | サステナビリティライブラリ | サステナビリティ

https://www.khi.co.jp/sustainability/library/infosec_report/

速

Optimization

事業の品質とスピードを上げる



■ 事業状況の可視化と意思決定の高速化

- 業務/作業の進捗状況、課題状況のデータ収集及び可視化
- 収集したデータをAI等による高精度かつ効率的な分析の実施、および経営判断への活用

■ 事業スピードの高速化・効率化と顧客接点の強化

- 業務プロセスを整流化し、高い生産性を発揮
- 顧客接点を強化し、提案型の活動を推進（企画～サービス全般において）

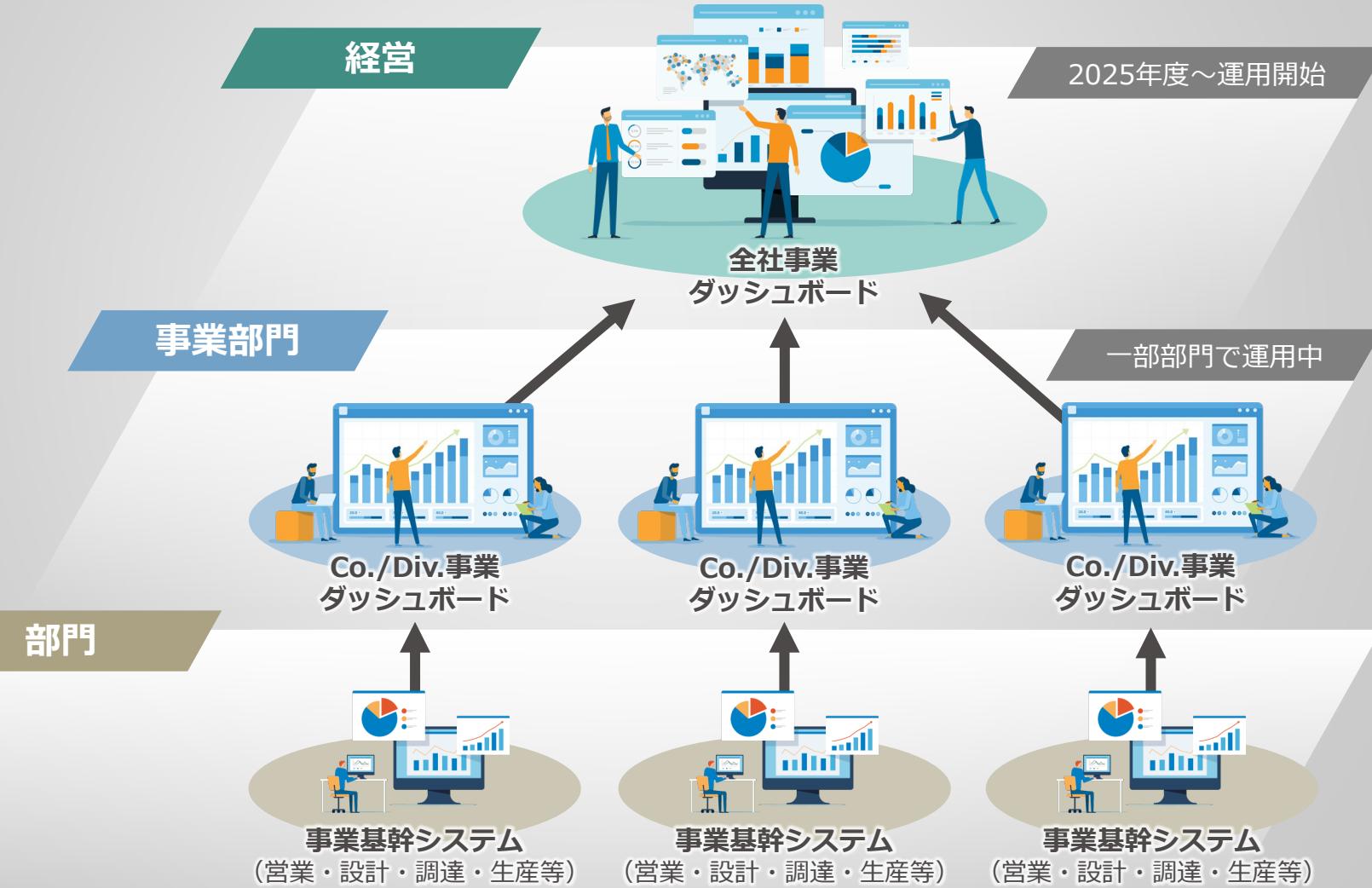
■ バリューチェーンデータの高度化とプロセスとオペレーションの標準化

- サプライヤ～カスタマのバリューチェーンにおいて、必要な情報を一元化し、AIを積極活用
- 業務の標準化推進+自動化による業務品質の安定化

速の取組み

①データ連携による経営判断環境の整備

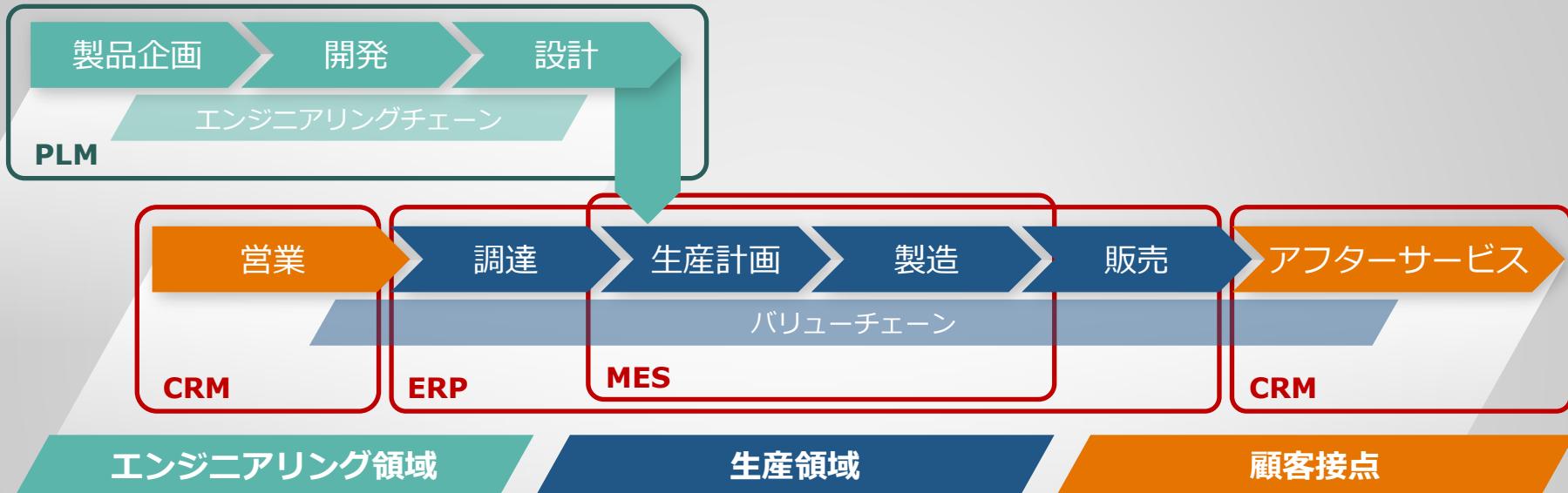
各エンジニアリングチェーン・バリューチェーンのデータを連携し、可視化されたデータに基づいたグローバルな経営判断へ活用し、コンプライアンス強化も推進する。



速の取組み

②各事業部門のDX活動と主要システム

エンジニアリングチェーン・バリューチェーンの主要なシステムは、統一した概念に基づき各部門の業務特性に合わせた統合システムの構築を進めている。



- 技術開発本部主導で進めているK-DPX活動も活用し、各部門でPLM（部品表を核とした技術情報の統合管理システム）の構築を順次進めている。

- 業務プロセス変革及びシステム老朽化対応のため受注～調達～生産～出荷に至る基幹業務をカバーするERPの再構築を計画・推進中。エンジニアリング領域の新環境構築と歩調を合わせ業務全体の整流化につなげていく。
- 生産実行システムは、生産管理板の電子化を合わせて展開中。

- 量産部門から顧客情報・受注前の商談情報の管理基盤を構築推進中。
- サービス・営業部門からの情報共有を進め、事業部門全体での顧客サービス向上、提案力強化、業務効率化を図る。

K-DPX : Kawasaki-Design Process Transformation CRM : Customer Relationship Management PLM : Product Lifecycle Management
ERP : Enterprise Resource Planning MES : Manufacturing Execution System

速の取組み

③営業活動管理

案件・活動管理データ活用による提案力強化・業務効率化

「情報戦を制し、受注件数を向上」をコンセプトに2022年4月にリリースしたシステムを展開・活用中。

案件進捗状況の可視化・共有

案件進捗に関するダッシュボードを構築。都度の集計作業を行うことなく、リアルタイムな状況確認が可能。



予実
管理

受失注
管理

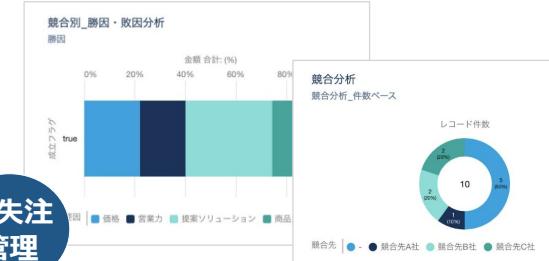
お客様

タスク
管理

行動
管理

案件毎の受失注理由の見える化

受失注要因を入力し可視化することで以降の営業活動に活用。



営業の標準タスクを明確化

案件のフェーズ毎に最も勝率を高める為のタスクを明確に定め、タスクの進捗を管理。活動のBest Practice化により、フロント営業のスキルの向上・平準化を実施。



顧客関連情報の共有

部門を横断して、顧客に関連する全ての情報を共有。営業-サービス部門での情報活用を開始。



新

Innovation

新たな“コト”をクイックに生み出す



■ グループビジョン2030実現に向けた活動を推進

- 次世代ロボティクス、モビリティ、エネルギー環境の3領域のサービスソリューションに焦点
- 社会課題解決に向けて、「誰とでもすぐに組める」デジタル基盤構築をはじめ、イノベーションを誘発・加速する共創環境をつくる

■ デジタルを活用した事業基盤と運用サービス提供

- KHI独自の産業用デジタルビジネス向け基盤と運用サービスを提供
- ビジネス開発を推進できるキーマンを育成し、事業開発へ人財支援

新の取組み

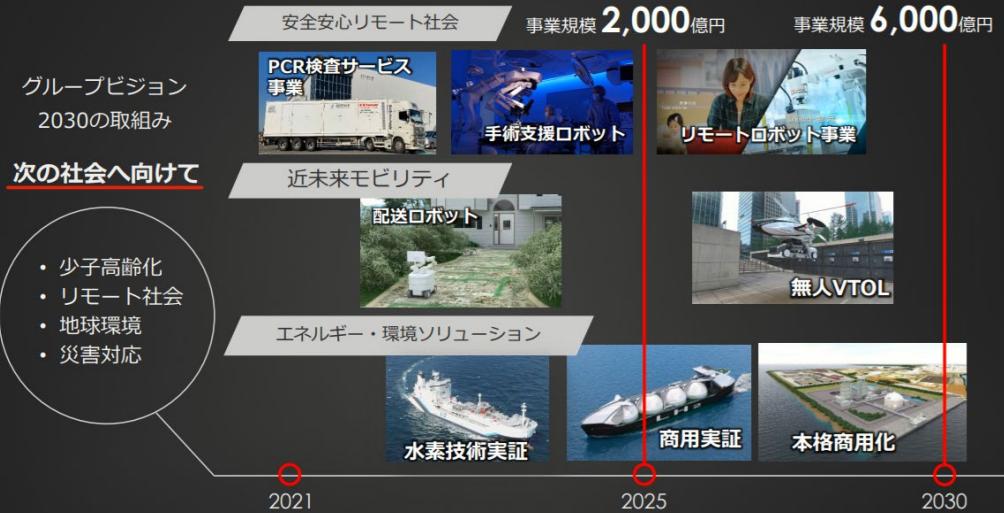
①新たなデジタルサービスの展開

グループビジョン2030の各注力フィールドにおいて、デジタル技術やデータを活用した新しいデジタルサービスを展開し、新たな顧客価値の創出に取り組んでいる。

安全安心リモート社会

手術支援ロボット

手術支援ロボット「hinotori™ サージカルロボットシステム」※
(製造販売元：株式会社メディカロイド) の展開



近未来モビリティ

新感覚オフロードパーソナルモビリティ
「CORLEO（コルレオ）」の開発

エネルギー・環境ソリューション

水素流通を見る化し、水素取引を支援する
「水素プラットフォーム」の展開

※ hinotori™は株式会社メディカロイドの商標です。

新の取組み

②実証事例

デジタル・AI技術やネットワーク・クラウド技術を駆使したデジタル基盤を構築し、各注力フィールドでのイノベーションを加速。

AI・ネットワーク

安全安心リモート社会

手術支援ロボット「hinotori™ サージカルロボットシステム」を用いた欧州と日本間で初となる遠隔手術の実証実験に成功
(川崎重工業とシスメックスの合弁会社であるメディカロイドの取り組み)

デジタル技術&データ活用のポイント

フランスに設置した「hinotori™ サージカルロボットシステム」のサージョンコックピット※から手術操作を行い、日本外科学会の医師による助手操作・補助の下、神戸側に設置したオペレーションユニット※の手術操作を遠隔で行う実証実験を実施。
 (株) NTTコミュニケーションズ(現:NTTドコモビジネス(株))様の高速で安定した通信ネットワークインフラを活用し、太平洋と大西洋をまたぐ片道約23,000kmに及ぶ距離で実現。

※ hinotori™ サージカルロボットシステムの各ユニット説明



オペレーションユニット

サージョンコックピット

出所：https://www.medicaroid.com/release/pdf/250617_ja.pdf

AI・シミュレーション

近未来モビリティ

新感覚オフロードパーソナルモビリティ「CORLEO」の開発に着手



デジタル技術&データ活用のポイント

「CORLEO」の製品化を実現するにあたり、4脚型モビリティの乗車体験ができるライディングシミュレータの開発を予定。このライディングシミュレータは、2027年中の完成を目指しており、「CORLEO」の開発過程で得られた3Dモデル、モーションデータを含めたシステム全体をゲーム・eスポーツ業界に展開することを視野。

出所：https://www.khi.co.jp/pressrelease/detail/20251203_1.html

クラウド

エネルギー・環境ソリューション

水素取引を支援する「水素プラットフォーム」の実証試験が完了



地熱発電所を含む水素製造サイト外観
(写真提供：株式会社大林組)

移動式水素ステーションとFCV外観
(写真提供：江藤産業株式会社)



水素プラットフォームイメージ図

デジタル技術&データ活用のポイント

製造から消費手前までのサプライチェーン全体を対象とし、検証では、GHG排出源を特定し、電力消費量やカーボル輸送の実走行距離などの排出源のデータに加えて水素量に関わるデータをセンサーや伝票などから取得し、GHG排出量および水素の炭素集約度の算定方法が、国際規格に則していることを確認

出所：https://www.khi.co.jp/pressrelease/detail/20250214_1.html

新の取組み

③他社との共創による新たな価値創出

クラウド基盤の構築を通じて、注力フィールドでのデジタル共創環境を実現

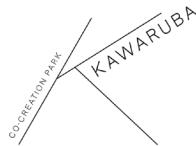
他社との共創

新たな価値創出に向けた、他社との共創の推進

クラウド共創基盤の構築

クラウド基盤(セキュリティ含む)を使った共創環境を整備。ソーシャルロボット向けクラウド基盤は、当社の共創空間であるKAWARUBA[※]にて活用中。

※KAWARUBAとは



- ・ 多様なステークホルダーとのタッチポイント。社会課題ソリューションの社会実装を行う場
- ・ 注力テーマ（水素・CN、ソーシャルロボ）と共に感する仲間とともに強力に推進

KAWARUBA公式ウェブサイト:
CO-CREATION PARK KAWARUBA | 挑戦心が集う。未来が変わる。

その他、主な共創の取り組み

川崎重工のヘリコプター手配サービス「Z-Leg™」 星野リゾートと連携

(2025年6月発表)
 https://www.khi.co.jp/pressrelease/detail/20250612_1.html

KAWARUBAにて繋がってきた実例の一つとして、NTT ドコモビジネスとロボット・モビリティ・社会インフラ等のネットワーク連携による新しい社会の創造に向けた戦略的協業に関する覚書締結

<安全・安心で豊かな社会の実現イメージ>



川崎重工と NTT ドコモビジネスが、ロボット・モビリティ・社会インフラ等のネットワーク連携による新しい社会の創造に向けた戦略的協業に関する覚書を締結

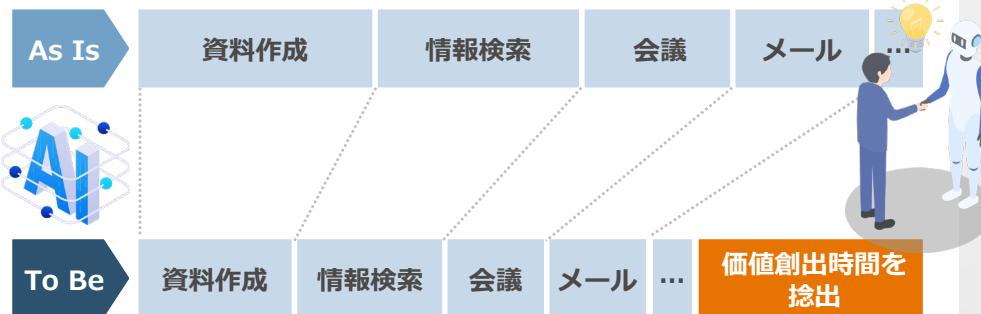
https://www.khi.co.jp/pressrelease/news_251009-1.pdf

AIの活用

川崎重工グループは、昨今のAI活用における倫理上の課題や自立化した工業製品に対する安全性への懸念を鑑み、継続して技術開発と活用の拡大に当たって遵守すべき「AI倫理方針」を策定した。この方針に沿って、社内の生産性向上や、安全・安心な製品・サービスの提供に努めている。

社内でのAI活用

○事技職業務（間接業務）におけるAI活用



AIの支援を受けて各業務を効率化 ▶ 価値創出の時間を捻出

○製造におけるAI活用

- 調達業務、設計業務等の効率化
- 作業分析
- 生産計画最適化、標準作業モニタリング



製品・サービスでのAI活用

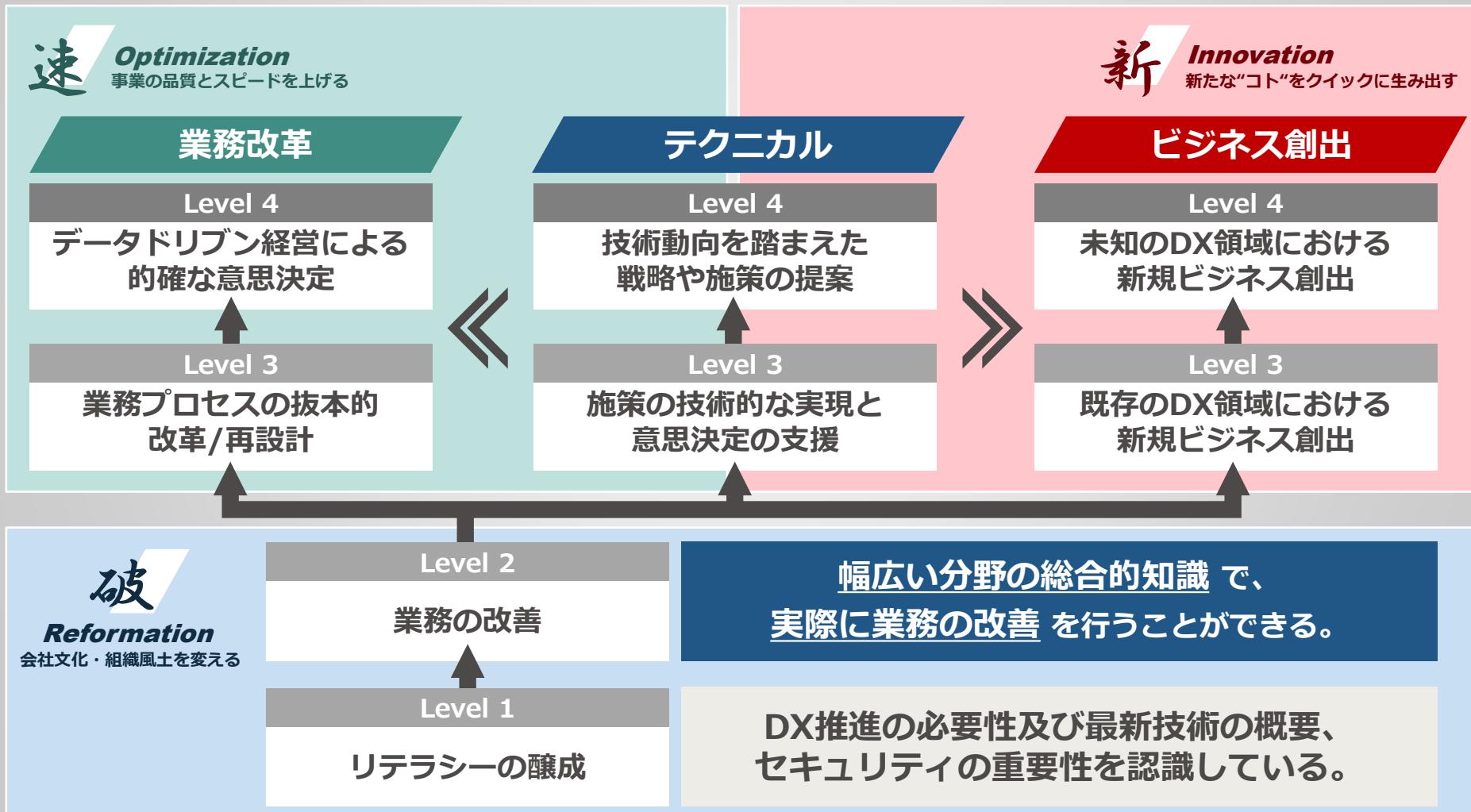
○AIビジョン | 川崎重工の産業用ロボット



<https://kawasakirobotics.com/jp/products-others/ai%E3%83%93%E3%82%B8%E3%83%A7%E3%83%B3/>

DX推進人財の育成と教育体系

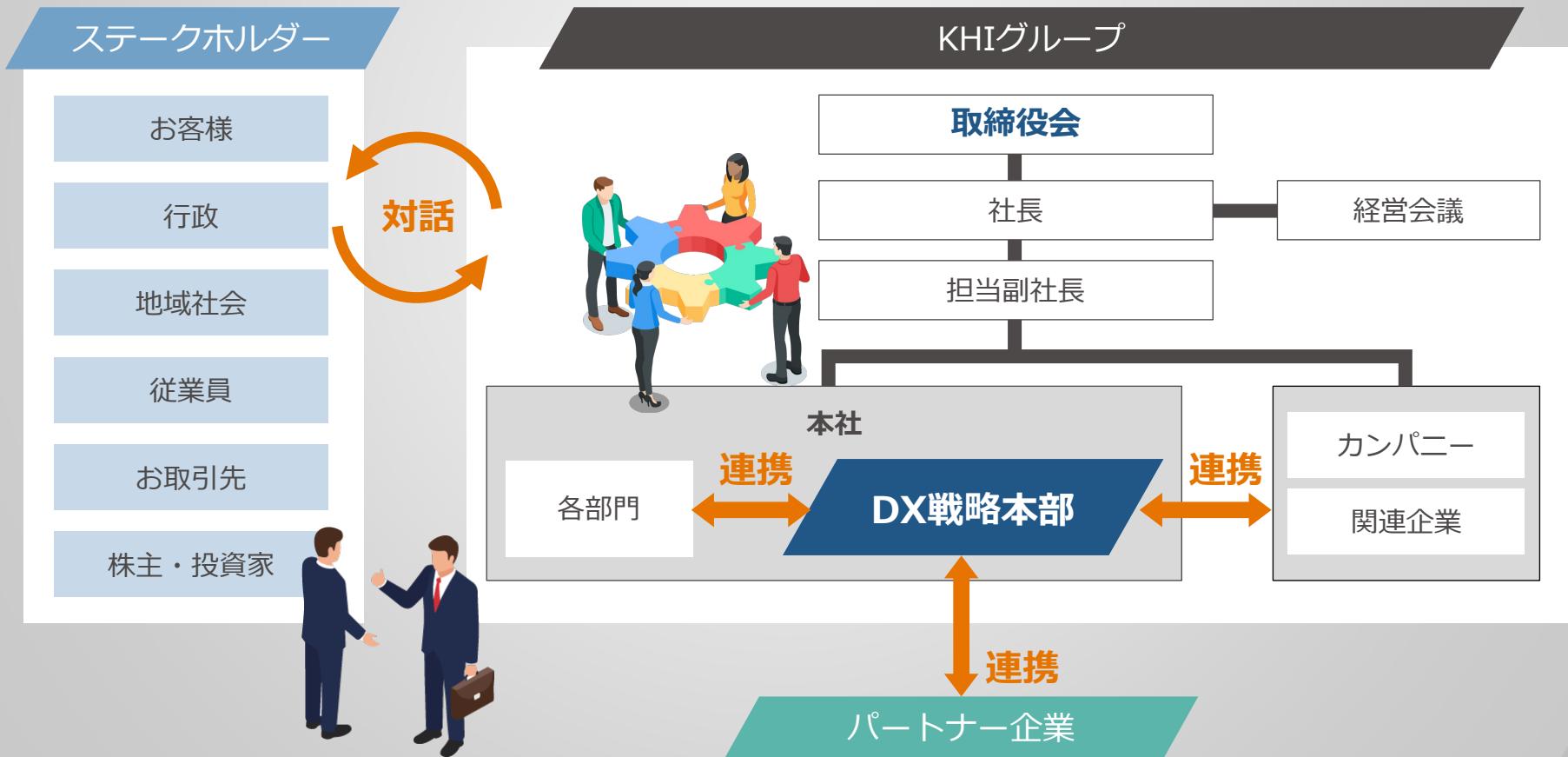
リテラシーの醸成から業務改革、ビジネス創出まで段階的にDX推進人財を育成する教育体系を整備した。



DX推進体制

DX戦略本部が中心となり、本社各部門・カンパニー・関連企業と連携してDXを推進している。

パートナー企業との連携を主体的に推進するとともに、ステークホルダーとも積極的に対話をを行っている。



つぎの社会へ、 信頼のこたえを

Trustworthy Solutions
for the Future



Facebook



LinkedIn